

# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南第三小学校

## 1. 昨年度の学力向上の取組みの成果と課題

- 文章を読んで正しく理解する力や、条件に合わせて書く力などに課題が見られたので、全ての学年の日常の授業において、音読を積極的に取り入れるとともに、毎週、読解力問題に取り組みました。また、自分の考えを書く場面や意見を伝え合って話し合う場面を多く取り入れました。さらに、算数で躓いている児童には、授業以外の時間も活用し、個別や少人数での指導を行いました。
- 各学期の授業に関する児童アンケートでは、「自分の考えを書く場面がある。」「自分の意見や考えを伝える場面がある。」「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりしている。」といった項目の回答結果が向上しました。また、読解力テストの結果が、学期ごとに向上していきました。
- 各教科の単元ごとのテストでは、多くの児童が概ね満足できる結果でしたが、学期のまとめなど、複数の単元の学習内容を含むテストでは、内容を忘れていた児童も多く、学習の積み上げと定着が課題です。

## 2. 教科における成果と課題について

### 【成果】

- 国語では、目的に応じて集めた材料を関係付けて、伝えたいことを明確にすることができるかを見る問題は、良好な結果でした。この問題の設定が「学校のよさを伝える文章を書く。」という場面であり、児童が同様の経験をしていたことと、問題を正しく読み取れたことが要因と考えられます。  
また、漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題では、「競技」を正しく書くことができた児童が、全国平均を大きく上回りました。
- 算数では、角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかをみる問題は、良好な結果でした。授業で自分の考えを書き、意見や考えを伝えて話し合う活動を積み上げてきたことが要因と考えられます。

### 【課題】

- 国語では、文の中で主語と述語との関係を捉えることができるかをみる問題では、正答率が全国平均を下回りました。自分の考えを書いたり発表したりする活動などで、児童が主語と述語を正しく使えるよう、繰り返し指導する必要があります。
- 算数では、球の直径と立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を立式できるかをみる問題では、円周率を使った式を書いた誤答が多く、正答率が全国平均を下回りました。問題文や図から問題場面を正しく読み取ることができるよう、自分で図に数値を書き込むといった手立てを身に付けさせることが大切です。  
また、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかを見る問題では、2つの条件の中で1つの条件についてのみ記述した児童が多く、正答率が全国平均を下回りました。複数の条件を満たして記述する経験を増やす必要があります。

## 3. 児童生徒質問紙調査について

項目	肯定的割合 (%)		
	R5 本校	R6 本校	R6 全国
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	76.5	84.2	83.5
英語の勉強は好きです	52.9	63.2	69.3
5年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。	—	92.1	86.1
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	—	97.4	86.3
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	52.9	76.3	67.1

- 1つめの項目の肯定的な回答は、昨年度よりも上昇しました。社会科の産業や防災に関する学習で、自分たちの生活との関連を考えることを大切にされたため、地域や社会へ関心を高めることにつながったと考えられます。今年度から全学年で地域未来の学習を行うので、子どもたちの地域への愛着がさらに高まるよう取り組みます。
- 2つめの項目も昨年度よりは上昇しましたが、全国平均を下回っています。英語の授業以外でも、英語に親しむ取組みを工夫します。
- 3つめの項目は、全国平均を上回りました。児童がタブレットに自分の考えを入力し、学級全体で共有して話し合う活動を積極的に行った成果です。様々な教育活動において、タブレット端末を活用して考えを共有したり深めたりする機会を、さらに増やしていきます。
- 4つめの項目は、ほぼ全員が肯定的な回答でした。各教科や学級会などで日常的に話し合う活動を大切にしてきた成果です。今後も継続して取り組むとともに、めあてに応じた話し合いなどにより、話し合いの質を高め、児童の考えが深まることをめざします。
- 5つめの項目は、全国平均を上回りました。以前から、全学年で学期ごとに生活アンケートを取り、担任が児童と個別に話をするカウンセリング週間を実施しています。また、児童の気になる状況については教職員で共有し、役割分担をして対応しています。しかし、約2割の児童が否定的な回答をしています。タブレットのアプリを活用するなどして、児童一人ひとりの気持ちの状況についても把握できるよう、取り組んでいきます。